

ミラノ・コレティナ冬季オリンピックがいよいよ開催されます。
「会場を沸かせたい」「目標は金メダル」など、選手達の思いは色々です。
日頃の努力が各競技で無事に披露できるよう願います。
さて、落款は作品が完成した際に署名や押印すること、またその署名や印のこと。当コーナーのかな作品では、ほとんどの方が押印のみですが、その印がないものが散見。先月号の「現代書研究」での記述通り、落款までが作品です。落款を入れて自分の作品ということをしつかり主張していただきたいと思いました。

かな部 次号課題

A 松の雪しづるるたびになきさして

またなきいづるうぐひすのこゑ (大口鯛二)

・松の枝に降りつもった雪が、ささつとくずれ落ちるたびに、その音に驚いて啼きやむ鶯が、またほどなく美しい声で啼きはじめるよ。

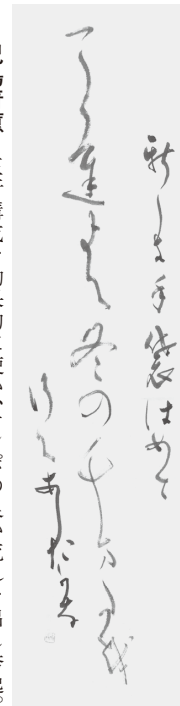
B 陽炎や取つきかぬる雪の上

(山本荷兮)

・晴天の日はさすがに暖かくかげろうが立っているようだが、いまだ残雪もあつてはかなげな風情である。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉

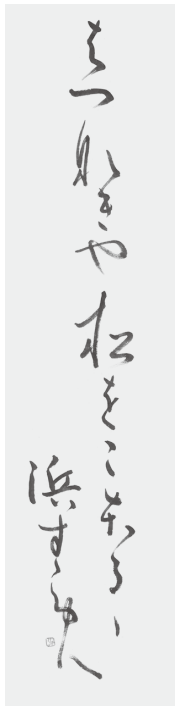


児島青恵 三行構成を効果的に使い、テンポの良い流れを出し秀逸。

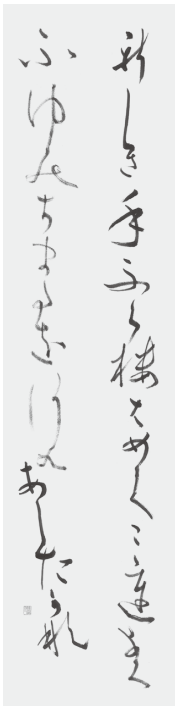


冬廣紫貴 冒頭の「初」は、やや大きいのが、全体の勢いに圧倒される。

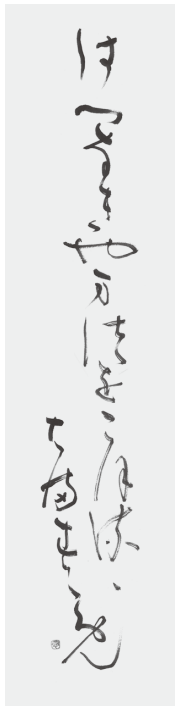
〈修士以下の部〉



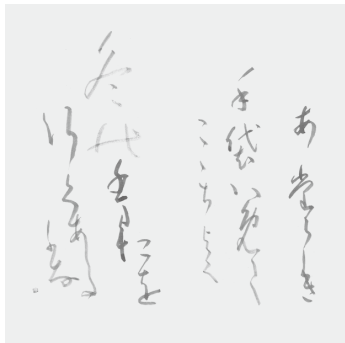
中畠かおる 確実な線と配置で余白が美しい。渴筆部分が欲しい。



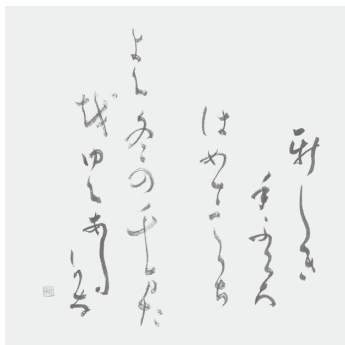
橘佳緒里 温厚に書き進めて好印象。下部の文字の傾斜に留意。



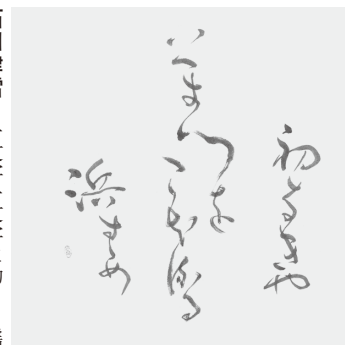
木村恭翠 強い線で堂々とした書き振りに感心。



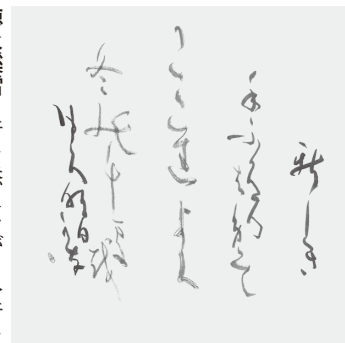
近松志津子 穏やかな墨色と構成で安定した作。



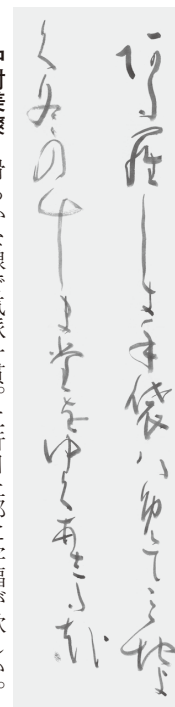
福井亜季 骨力のある線が魅力。文字の大小変化にも工夫を。



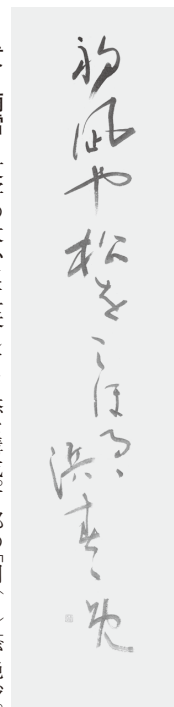
石田津雪 一文字一文字に動きと揺れをつけて、表情豊かに仕上げた。



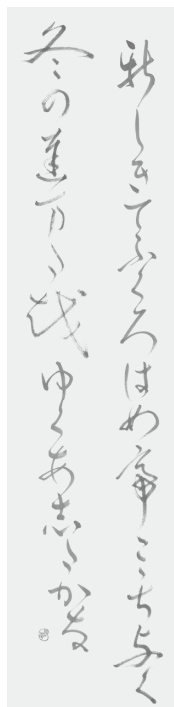
徳永溪雪 行を添えながら多行をまとめて佳。墨色も美しい。



中村美爽 滑らかな線で気脈一貫。二行目上部に字幅が欲しい。



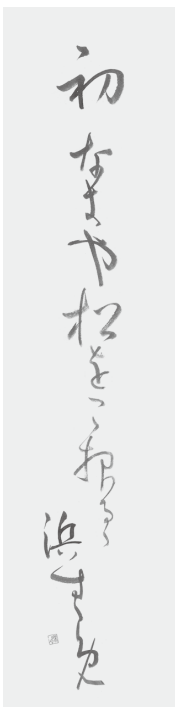
貢楠雪 文字の大小に工夫して自然な構成。下部の「間(ま)」が絶妙。



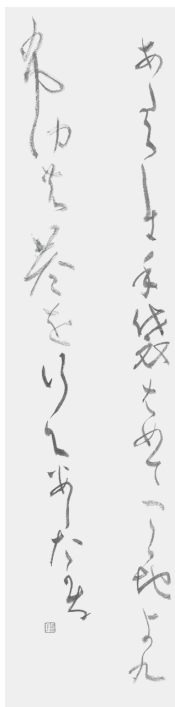
増田桂華 堅調な運筆と構成で温和な佳作。「め」は小さく。



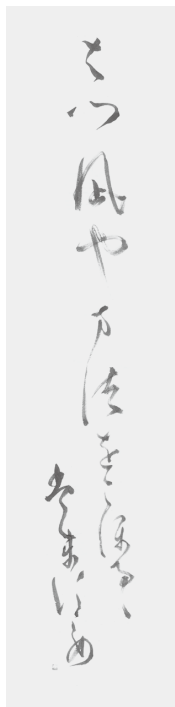
吉田純真 文字の大小を巧みに使い、三行を爽やかにまとめた。



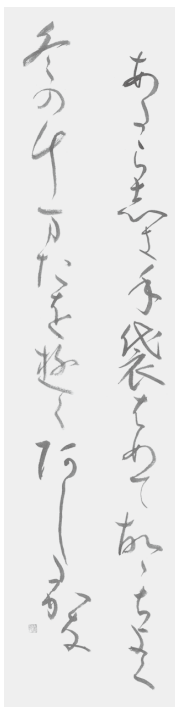
北村映月 丁寧な運筆で誠実な作に好感を持つ。



西村智子 漢字を効果的に使い、二行の響きあい美しい作品となった。



西垣早苗 上部の広い間(ま)と下部の狭い間(ま)で粗密を表現して安定感あり。



佐藤紫光 力まず流暢。特に二行目は高野切を彷彿とさせて佳。